

ホーム名：グループホーム天神橋やすらぎの里 2F親和

自己評価	夕音評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を貼り出しており、出勤時だけでなくフロアの出入り時には確認できる環境である。また、入社時や勉強会では確認するようにしている。	理念は各ユニット毎のフロア入口に掲示されている。地域の中のホームと個人の生活を支援の主体として謳われており職員全体に浸透されている。また各階のエレベーター前には理念と共有し合っているユニット毎の精神が描写されている。	理念の掲示がやや小さく職員以外の者には確認しにくい位置にあるようである。もう少し見やすい位置にされてはいかがだろうか。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	外出は日課となっており、馴染みの方もできている。また、自治会にも加入し地域のイベントにも積極的に参加している。	地域とのつき合いは以前から天神祭りや盆踊りなどの参加を続けている。すぐ近くにある小学校の運動会も見物したりしている。自治会を活用することによって地域との関りを深めて行くようにしている。	地域の方々に事業所内で実施されている行事に参加されるよう働き掛けをされてはどうだろうか。地域との交流の拡大につながるものと思われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々がご家族の相談などで来苑する機会が多くある。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催を行っており、ご家族や地域の方々などに意見を頂いている。またスタッフにも共有できるよう申し送り時に報告している。	2ヶ月毎の運営推進会議には自治会や2ヶ所からの包括支援センターの職員、同地域のグループホームからの職員の参加を願っている。時節柄の議題やヒヤリハットの報告と対応、行事予定、支援上の問題など活発な討議が行われる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	疑問点などは随時連絡するとともに、日々の困難事例などはGH連絡会などを利用し報告・相談を行っている。	北区全体のグループホーム連絡会での取り決め事項の報告や生保者の支援上の問題について相談を求めたりしている。	市の保有する福祉関連情報を求めたり運営推進会議への定期的な参加を促すなどされ、市との関りを更に深めていかれるよう期待したい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	勉強会を定期的で開催するとともに不参加者には、資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また施設内は自由に行き来できる環境作りをスタッフ同士連携を取り、行っている。	身体的拘束防止マニュアルを策定し共有化を図っている。ベッド柵やミトン手袋、つなぎ服等のない介護支援を実施している。エレベーターの使用は自由であるが入居者の安全のため職員が見守り同行するようにしている。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を定期的で開催するとともに不参加者には、資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また、管理者や主任が積極的に現場に入り日々のケアを確認している。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会を定期的開催するとともに不参加者には、資料を配布するなどし、全員が学べるようにしている。また必要な方や相談があった場合には各関係機関に取り次ぐよう支援できる環境にある。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には管理者+1名の体制で十分な説明時間を設けている。また来苑時は話しやすい雰囲気作りに努めている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に風通しの良い環境を作れるよう管理者も現場にはいるようにしている。また、行事などにも家族が参加できる機会を設けている。</p>	<p>家族の訪問時には管理者や職員から話し掛けるようにし日常の支援や介助について意見や要望を聞くようにしている。管理者は運営に反映できるよう考慮している。</p>	<p>あまり訪問されない家族には事業所からアンケート式の質問を郵送され少しでも家族の要望が反映できるよう努めて頂きたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>勉強会で発言できる機会を設けると同時に、管理者は勤務時にはスタッフ全員に声をかけるよう努めている。また代表者も管理者だけでなくスタッフの声を聴けるよう施設に訪れる機会を多く設けている。</p>	<p>毎日の申し送りや業務中の職員同士の会話で支援のあり方や改善についての提案がある。日常の介護支援から出される意見だけに必要性もあり反映できるような努力をしている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>非常勤からの常勤への転換や時給の見直しなど、随時行っている。また、資格支援も行っている。昨年4名常勤に転換、2名資格取得の実績がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修に参加、また外部研修などの参加を積極的に支援している。その際には、業務内で参加できるよう配慮している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>管理者を中心に交流会や連絡会、医師会の勉強会などに参加し交流を深め、施設サービスの見直し・向上に繋げている。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前のアセスメントを十分にを行い、その際には本人が話しやすい雰囲気作りに努めている。また情報は全スタッフで共有している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談・申込時には、十分な時間をとり傾聴することで安心して頂けるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>充分な聞き取りを行い、ニーズにあったサービスを提案・提供できるよう、必要であれば法人内またはグループ内の専門職よりサービス案内などを行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事などのなかでスタッフも教わるが多く、生活を共にする家族のような関係作りに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時などには話しやすい雰囲気作りを行い、生活の様子を伝えるとともに外出や行事などにもお手伝い頂けるよう、些細なことでも連絡するなど日頃より積極的にコミュニケーションをとっている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近隣の方が多く、散歩などで馴染みの通りを巡っている。また、遠方の方でも知人の面会がありその際にはゆっくりと話せる環境作りに努めるとともに日頃の様子などをお伝えしている。</p>	<p>ホームの前が公園であり、幼児や子供達の遊ぶ姿を見て楽しむことができる。今やここが一番の馴染みの場所であるがふれあい喫茶に出かけて歓談したりもする。中には家族と墓参りに行く入居者もいる。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>認知症の進行で困難な方もいるが、スタッフが間にはいることで利用者同士の関わりを増やしている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院後、回復に向かい他施設に入居した方などにはバスツアーの案内を送っており、6月には参加予定。また、死去されたご家族も2度程だが懐かしいと来苑している。</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より本人の言葉や表情などを記録に残すことで想いを把握できるよう努めている。	同じ話し掛けでも入居者によって反応が違う事から生活記録を参考にしてその人に適した対応をしている。職員の経験から入浴中の会話でよく本音を聞かされるとの事。これらも考慮しながら思いや意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時の聞き取りだけでなく、日々のコミュニケーションで聞いたことは記録に残し共有している。また家族の面会時などにも聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をしっかりと記入し、スタッフ全員が変化や現状を把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を計画作成者だけでなく、管理者や主任、フロアスタッフや主治医・訪看などで話し合いよりよいケアに繋げられるよう行っている。	ユニット毎に計画作成者を決めできる限り入居者の特性と体調に合った介護計画を作成している。主治医の指導や訪看の意見はもとより本人、家族からの聞きとり、職員の観察も踏まえ総合的に判断をしている。長期計画は2年、短期は1年、見直しについては期限はない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は詳細に記入するとともに、スタッフは出勤前には記録に目を通している。情報共有を行い、必要であればその都度、管理者に相談しケアの見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内だけに留まらず、家族やグループ内での協力を仰ぎ、可能な限りニーズに対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい喫茶の参加を継続して行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2名の方は施設主治医が以前よりかかりつけであった為、継続。その他の方は、本人・家族への案内、主治医の紹介などで納得のうえ変更している。訪問鍼灸などは継続あり。	入居時に協力病院が石井クリニックである事を説明（緊急時の対応や訪問看護師の医療支援で安心・安全）している。専門医療や家族の要望と送迎などの協力のもとで従来からのかかりつけ医を受診している方もいる。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>4回/週の訪看があり、その都度日勤リーダーより各階申し送りを行い、情報共有を行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中も本人、家族とは密に連絡をとっている。また病院とも施設のみ情報交換を行うのではなく、主治医からも病院と直接情報交換を実施している為、E N T後も安心して生活できるよう関係作りを行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に説明を行っている。また、終末期においては、その都度家族・主治医・訪看などを交えて話し、チームで支援できるように努めている。</p>	<p>家族には入居から看取りまでの支援体制について説明し同意文書を取り交わした上で入所してもらっている。重度化に向けては医師を交えて再度話し合い、現状に即した介護支援を図っている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会を定期的で開催するとともに不参加者には、資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また、管理者や主治医には24時間の連絡体制にある。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を2回/年行っており、避難場所においては貼り出しをし、スタッフ全員が把握できるようにしている。また、地域の方々とも連携を持てるよう日頃よりイベントに参加するなど交流をしている。</p>	<p>避難訓練は年二回自主的に実施されている。火災発生時には通報と消火が第一である事をよく自覚している。入居者の避難は階段に繋がる非常口まで誘導し消防署員によって外部へと連れ出される。防火対策として各室のスプリングクラー、リビングには消火器が設置されている。</p>	<p>職員の入退職の件も考慮され年二回の訓練の内一回は消防署の立ち合いを求められ新たな指導も受けられるよう望みたい。避難者の事を考えると近隣からの協力も得られたい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーを損なわないよう配慮している。	介護や支援を受ける側の立場に立って物事を考えるようにしている。羞恥や自尊心を傷つけるような言葉ずかいや態度は取らない。名前は「さん」付けをし、トイレ誘導は本人だけに聞こえるように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃よりコミュニケーションを大切に想いを伝えやすい関係作りを行うとともに、選択できるような声かけを行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定員が通常のGHより少ない為、関わる時間が多くありそれぞれのペースで過ごせるよう配慮している。可能な限り希望に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時には、スタッフと着替えを選ぶようにしている。またカットなども訪問ではなく店を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳、洗い物など可能な限りスタッフと一緒にやっている。また選択メニューや行事などには、アンケートを取っている。	食事は給食業者から配給され味付けや栄養管理も行き届いている。入居者の中には調理や配膳の手伝いをする人もいる。出来る限り声掛けをし皆で楽しめる食事時間になるよう努めている。外出時の行動食などはそれぞれの好み合わせようとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	主治医の指示のもと、必要な方に対しては水分チェックや計測などを実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。また、衛生士と連携しケアのアドバイスをもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別に排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛けを実施している。夜間オムツ使用なしになった方が1名、昼夜ともにパットが外れた方が1名パットのサイズが変更になった方が1名いる。	生活記録表を作成し各人に合った排泄への声掛けとトイレまでの誘導をしている。リハビリパンツから布パンツに変えて自らが排泄意識を高めるような工夫をしている。少しずつであるが自立排泄への成果に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操・歩行などに努めるとともに毎朝、ヨーグルトの提供している。また訪看と連携をとり腹部マッサージやホットパックなども必要に応じて実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回以上、好きなタイミングで入れるよう声掛けを行っている。	入浴は週に2,3回実地されているが出来る限り本人の希望に沿った日に合わせように取り図っている。入浴時には皆さん普段よりよく話されリラックスされている。	職員の話掛けが功を奏している。継続を願いたい。また、個人の好みもあるが入浴剤の投入も検討されてはどうだろうか。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入床・起床時間はそれぞれのペースで行っている。22時頃までフロアでTVを見られることもある。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬情をファイリングしており、いつでも確認できる。また新しい薬が出た際には申し送りにて周知している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>外出による気分転換だけでなく、音楽やピアノ、民謡などこれまでの生活歴にあった楽しみを提供できるよう努めている。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>ほぼ毎日のように買い物や散歩などしている。近隣の方は自宅などに行くこともある。また、喫茶店やバスツアー(年2回)にも参加している。外食は家族の協力もある。</p>	<p>事業所が住宅街の中にあり近隣には商店街、喫茶店、食堂、公園、少し離れた所には大川の河川敷もあり外出支援には事かない立地条件にある。家族の協力やバスツアーもあり外出支援は活発である。</p>	<p>事業所の前が公園であるという恵まれた環境にある。あまり外出を好まない入居者にも子供と自然に会うことが出来る場所である。精神の活性化のためにも身近に利用できるこの公園の活用を更に図って頂きたい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己にて管理している方はいないが、可能な方は買い物時などお預かりしているお金で支払うように支援している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙や電話をする方はいない。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた装飾を行うようにしている。また、季節や時間に応じた空調や湿度管理を行っている。</p>	<p>リビングのテーブルは円形で角がなく安全であり優しい感じがする。テレビは見る人だけに聞こえる程度である。壁の色は全体に明るく入居者どうして話やすい雰囲気に包まれている。リビングを中心に浴室、トイレなどが旨くまとめられ家族的な感覚が醸し出されている。</p>	<p>毎月のカレンダーを職員と入居者で合作されリビングに掲示されてはどうか。共用空間に更なる親しみを添えるようにも思える。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>必要に応じて椅子やテーブルを移動するなど配慮している。ソファやキッチンカウンター横で過ごす方が多い。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全ての方が以前より使用していたものを持参している。写真や手紙などを家族が持参し、安心できる空間作りに努めている。</p>	<p>居室にはそれぞれの思い出の調度品や好みの衣服が持ち込まれている。掃除は行き届いて清潔さは維持されている。家族や職員の協力もあってそれぞれの個性に合った生活感が演出されている。入居者はここを自分の家と自覚されている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーになっている。居室には番号ではわかりにくい為、一人ひとり、マークをつけている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない